

被災地「忘れないよ」



被災地へ寒中見舞いを送りたい人を募る
看板を作るメンバーら=名古屋市東区の
レスキューストックヤード事務所で

災害支援に取り組むRSYを通じて、九月に七ヶ浜町の復興まつりに参加したボランティア有志らが企画した。仮設住宅に暮らす住民から聞いた「世間の皆さんの記憶の風化が怖い。私たちを忘れないで」の一言がきっかけ。「現地に行かなくてもできる活動を」と考えた。

寒中見舞いは、「私たちは覚えている。今も心配している」の思いを届け、被災者を勇気づけるのが趣旨。はがきかポストカードに住民へのメッセージを手書きし、自分の住所と名前を記入。宛先は書かず、RSYに

「宮城の人たちへ」参加募集

持参か郵送すればいい。千枚を募集していく、来年一月上旬にボランティアが仮設住宅四百五十戸や行政の施設などに直接届ける。企画を提案した岡崎市美合新町、会社員白井悠さん(三四)は「形に残るもので、忘れていないよと伝えたい。いつでも見られる手書きの手紙で、皆さんに元気を出してほしい」と願いを込める。

企画の参加には一通当たり百円の寄付と、RSYのホームページ(「レスキューストックヤード」で検索)から事前申し込みが必要。締め切りは十九日。RSY事務局=電052(253)7550

寒中見舞い送ろう

「レスキューストックヤード」が企画

通じて、九月に七ヶ浜町の復興まつりに参加したボランティア有志らが企画した。仮設住宅に暮らす住民から聞いた「世間の皆さんの記憶の風化が怖い。私たちを忘れないで」の一言がきっかけ。「現地に行かなくてもできる活動を」と考えた。

寒中見舞いは、「私たちは覚えていた。今も心配している」の思いを届け、被災者を勇気づけるのが趣旨。はがきかポストカードに住民へのメッセージを手書きし、自分の住所と名前を記入。宛先は書かず、RSYに

東日本大震災の被災者に新年を明るい気持ちで迎えてもらおうと、名古屋市のNPO法人「レスキューストックヤード」(RSY)が宮城県七ヶ浜町の住民に寒中見舞いを送る企画に取り組んでいる。住民らは震災への関心の薄れを察しているといい、企画は「寒中見舞いで『忘れない』という気持ちを届け、新たな出会いのきっかけにしたい」が願い。一枚でも多くの参加を呼び掛けている。

(加藤祥子)